

3年1組たんけんステキ写真館
～まちと、人と、もっとつながろう～

1 学年・組 第3学年1組 36名

まちたんけんに出かけるまで、自分の家の周辺以外のことには関心が低かった子どもたちだが、まちたんけんを通して中村のまちの施設や、そこに働く人たちについて知り、「また行きたい」「もっと知りたい」という思いをもった。7月にはオリジナル地図を作って届ける活動、9月には「たんけんステキ写真館」として、「まちのステキ」を写真やクイズで伝える活動をし、地域のイベント「レインボーフェスタ」で発表したり、全校のクラスを招待したりした。「伝える」という活動にも手ごたえを感じ、相手や場に応じて工夫しようという気持ちも育ってきた。活動を進めていくなかで、活動協力者である地域の方々が、自分たちにとっても親切にしてくれることを感じ取り、「もっとかかわりたい」「もっと仲良くなりたい」という思いが高まっている。

2 単元について

中村のまちは、北に市営地下鉄阪東橋駅、市大病院、浦舟複合福祉施設、新南区総合庁舎などの交通機関や施設が集まり、東に八幡神社、南に中村プールや水道局、西には地区センター、どんとこいみなみ、南消防署中村出張所と、まちたんけんの人材に困らない多様なまち並みとなっている。子どもたちの多くは南方面や西方面に住んでいるが、南方面は坂が多く、また磯子区に隣接する西方面は学校から遠いこともあって、自分の家の周辺以外へは出かけたことがない子が多かった。まちたんけんに行くうちに、中村のまちにはたくさんの公共施設が集まっていること、そこで働く人たちの思いや願いを知ることができた。折しも今年度は新南区総合庁舎が建設中であり、建設現場を見学することも可能である。活動的で、好奇心いっぱいの子どものたちなので、調べたことを発信したいという思いで施設や人とくり返しかわる中で、まちのよさを実感し、地域の人の思いや願いを受け止めながら、地域社会に積極的に参加していく姿を育てていきたい。活動に協力してくれた人たちの名前を覚え、感謝の気持ちをもつとともに、その人の仕事や人柄、仕事や中村のまちへの思いに触れていくなかで、中村のまちで暮らしたり働いたりする人と自分の生活とのつながりや、中村のまちのよさを実感できると考える。

「ポプラタイム（総合的な学習の時間）って何するの」と、4月から楽しみにしていた子どもたちである。総合的な学習の時間は、どんなことを学ぶ時間なのか、子どもたちと話し合ってからスタートした。社会科のまちたんけんをきっかけに、「もっと知りたい」「もっとかかわりたい」という思いをもとに、まちにたくさん出かけて多くの人と触れ合えるような単元にしていきたいと考えた。まちでの生活に、地域の温かい支援は欠かせない。また「親切にしてもらおう」だけでなく、まちの人々の思いやまちに貢献する姿勢を知ること、自分も「親切にしたい」、まちのためになることをしたいという思いをもてるようにしたい。

3 単元目標

まちたんけんできになった施設やまちの人について再調査する活動を通して、中村のまちのよさやまちの人の思いに気づき、自分たちのまちを大切にしていこうという思いをもつ。

4 身に付ける資質・能力・態度

学習方法に関する こと	○まちたんけんのふり返りから課題を見つけ、再調査の計画を立てる。 ○写真や文などで自分の発見を表現しようと、情報を収集する。 ○まちのよさが伝わるように、分かりやすくまとめ、表現する。
自分自身に関する こと	○まちの人とかかわったり深く調べたりする楽しさを実感する。 ○まちのよさを知るとともに、自分ができることを考える。
他者や社会とのか かわりに関するこ と	○まちの人と礼儀正しく接したり、挨拶したりする。 ○まちと自分のつながりに気付き、地域の活動に進んで参加する。 ○まちのよさや伝統に興味をもち、大切にする。

5 単元構想図

3年1組たんけんステキ写真館 ～まちと、人と、もっとつながろう～



北コースは知らないことが多かったよ。
地区センターへは行っていただけ、初めて3階に行ったよ。
施設の人はとても親切だったな。

1 出動！中村のまちたんけんたい ～お世話になった方や施設にオリジナル地図をとどけよう～

(社会2 総合10 国語3)

- まちたんけんをふり返り、出会った人や発見した施設などを話し合う。①
- オリジナル地図作りの計画を立てる。①
- グループでオリジナル地図を作る。③
- お礼の手紙の書き方を知り、お礼の手紙を書く。③
- お世話になった方や施設に届けに行く。

工事中の南区役所、また行ってみたいな。
浦舟ホームのお年寄りが、喜んでくれた。
調べたことを伝えたいな。

2 3年1組たんけんステキ写真館 ～まちのステキを伝えよう～ (総合15 国語5)

- 中村小パーツクイズを体験する。
- まちたんけんに出かけて、まちのパーツの写真を収集する。
- 中村のまちパーツクイズを作成する。
- レインボーフェスタで地域の人に、パーツクイズを出題する。
- 全校の友達に、パーツクイズを出題する。

みんなびっくりしていたよ。
写真っておもしろいな。
もっと調べたことを、いろいろな方法で伝えてみたい。



3 もっと知りたい中村のまち (総合5 社会4)

- 2回目の新南区総合庁舎見学に行く。
- 社会科の販売や工場の仕事についての見学で出会った方について話し合う。
- 新南区総合庁舎完成見学会に参加する。
- お世話になった新南区総合庁舎のYさんたちに感謝の気持ちを伝える方法を話し合う。

H さんや T さんも、みんな親切だったね。
 中村のまちに工場がある理由は、何だろう。
 お礼をしたいけど、工事の人たちはもう会えないんだって。
 Y さんにインタビューしたいな。
 また写真館を開きたいな。



4 中村のまちステキな人ポスター展（総合10 国語5）

- これまでかかわってくれた方について、話し合う。
- ポスター展の計画を立てる。
- インタビューや写真撮影の依頼をし、担当した人について写真と文でまとめる。
- プレポスター展を開く。
- これまでの学習をふり返る。

6 活動の流れと評価計画（小単元「中村のまちのステキな人紹介します」）

活動内容	教師の支援・評価規準
<ul style="list-style-type: none"> ○これまでかかわってくれた方について、話し合う。 ・たくさんの人にお世話になったね。 ・Yさんにまた会いたいな。 ・もっと聞きたいことがあるよ。 ・どうやったらお礼やお返しができるかな。 ・中村小のよさも知ってほしいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ●これまでの活動の写真や活動協力者の写真を掲示しておく。 ●興味関心が分散してしまうところは、板書で整理し、思いを共有化できるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>これまでお世話になった方の名前を挙げ、どんな方だったか思い出している。</p> </div>
<ul style="list-style-type: none"> ○ポスター展の計画を立てる。 ・Wさんについて調べたい。 ・調べたことをまとめて、展示しよう。 ・展示場所はどこがいいかな。 ・Yさんを招待したいな。 ・中村小のみんなにも見てほしい。地域のステキな人を知ってほしいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ●活動協力者に事前に連絡し、学習の主旨を伝え、協力を仰いでおく。 ●展示場所を確保しておく。（新南区総合庁舎） ●思いをもって担当を選べるよう、声をかける。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>担当したい人について考え、調査の計画を話し合っている。</p> </div>
<ul style="list-style-type: none"> ○担当の人について調べる。 ・インタビューのお願いをしよう。 ・忙しいから、電話がいいみたい。 ・放課後、写真を撮りに行こう。 ・あいさつやお礼を忘れないでできたよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ●活動協力者に事前に連絡し、日程を調整する。 ●方面別にグループを割り振り、学習時間内でもインタビューできるように工夫する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>失礼のないようにインタビューをし、担当の人についてくわしく知る楽しさを実感している。</p> </div>
<ul style="list-style-type: none"> ○担当の人について、ポスターにまとめる。 ・聞き忘れがあったよ、どうしよう。 ・もう一度行って、写真を撮ってきたいな。 ・Hさんのステキが伝わる写真はどれかな。 ・インタビュー内容はまちがっていないかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ●グループで作業が分担しやすいように、手順を示す。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>写真や文などで調べたことを表現したり、もっと知りたいことを再調査したりしている。担当の人の仕事や思いやが伝わるように、分かりやすくまとめている。</p> </div>
<ul style="list-style-type: none"> ○これまでの学習をふり返る。 ・完成したポスターをYさんに見せに行きたい。 ・お礼の手紙を書きたいな。 ・ケアプラザで歌を聴いてもらいたい。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>中村のまちのよさを話し合い、自分たちができていることを考えている。</p> </div>

6 考察

まちたんけんの発展として、もっとまちや人とかかわる子を育てたいという思いから始まった単元である。新南区総合庁舎の完成する年度ということもあって、まちのよさを伝えたり、まちの変化を考えたりすることを中心に単元をすすめる予定であった。また、たんけんにかかせないデジタルカメラを、発信のツールとして考え、より効果的に使える子にしていこうとも考えていた。ところが子どもたちの実態や思いは想定通りにはいかず、活動がすすむにつれ、

- ①新南区総合庁舎にとどまらず、興味関心が分散した。
- ②自己評価が高い子が多く、「もっとよくなりたい」という思いを出発点にすることが難しかった。
- ③施設やまちではなく、活動協力者に興味をもっている子が多かった。という子どもたちの様子がみられた。



小単元2「3年1組たんけんステキ写真館」の活動の頃には、子どもたちの実態をふまえて単元の方向性を修正し、まちの人とのかかわりを深めることを中心としたゴールを設定し直した。「よりよく」という思いは、実際に発表の活動をくり返すなかで自然にうまれ、相手を意識したり、自分たちで修正を加えたりする姿が育っていった。



新南区総合庁舎には、クラス全員では2度、土曜日に希望者だけ参加という方法で1度、見学することができた。相談窓口のAさんと、現場を指揮するYさんに大変お世話になり、また、建設会社の方や工事現場の方にも子どもたちはとても親切にさせていただいた。完成が近づくにつれ、子どもたちの「また見学したい」「現場の人とまた会いたい」「お礼をちゃんとしたい」という思いが高まるものの、工事の進捗状況によってどれも思いはかなわず、自分たちの思いと現実のギャップも経験した。「また会いたい」「どんな人ももっと知りたい」「自分たちに親切にしてくれる理由を知りたい」という思いが高まり、人と仕事にクローズアップした学習を最終ゴールとした。これまでかかわった14人の方々インタビューを引き受けてくださり、まち人たちの子どもたちを見守る温かさを感じる。



ポスター展は子どもたちと相談し、新南区総合庁舎のギャラリーに展示することとなった。ギャラリーには協力してくださった方が見に来てくださったり、町内の方が見て感想を伝えてくれたりした。



新南区総合庁舎のオープンによって、まち並みや人々の思いが変化しているということについては、まだ気付きには至っていない3年生である。バスの経路が変更され、新しいバス停ができることを話題にしている子が何人かいたので、それを発展させて今後の総合的な学習の時間につなげていくことも考えられる。

③実施内容について

(1) 実施にあたり工夫した点

実施するにあたり、子どもの実態や思い、地域の特性、社会や総合学習のねらいなどを考え、モデルプログラムのNo.2とNo.8を参考に、単元構想を組み立てた。小単元2の「たんけんステキ写真館」の活動は、No.2を参考にしており、パーツクイズを作って、地域のフェスティバルで発表した。また、小単元4「ステキな人ポスター展」は、これまでの活動を生かして言葉をそえてポスターを作る活動に発展させた。複数のプログラムから発想を得ることで、子どもたちの実態に合ったものになったと感じている。

(2) 実施にあたり苦労した点

複数のプログラムを組み合わせることが、はたしてこの事業内容に合っているのか、不安を感じながら実践していた。しかしながら、単一のプログラムをそのまま実施することは、総合的な学習の時間の目標から考えると大変難しく、到達しえないと思われたので、このような実践内容となった。モデルプログラムを実施すれば自ずと「景観への学び」や「まちへの思い」へつながっていくというにはならないのではないかと感じている。様々アレンジを加えなければ生きた授業にはならず、迷いや試行錯誤をくり返し、今年度の実践を作っていた。

(3) 児童の反応

この単元に取り組み、「まち」に対してどの子どもそれぞれのアプローチの仕方でも思いを高めた実感している。気に入った施設や職員の方ができた子もいるし、将来はここで働きたいという思いをもった子もいる。まちで働くおうちの人を見つめ直した子もいれば、地域のお祭りを楽しみにするようになった子もいる。そして何より、「まちの人に見守られ、愛されている自分」をどの子ども感じる事ができた単元となった。

(4) 担当教諭及び担当外教諭の変化

担任として子どもたちとこの単元をつくりながら、わたしもこのまちのよさを再発見することができた。赴任して8年になるが、まちの人の思いを聞き、まちの施設を知り、まちの変化を目の当たりにしながら1年間過ごしてみて、人の思いやつながりで、「まち」という大きな枠組みが形作られていると感じた。この事業に出合い、この単元をつくってみて、わたし自身の勉強になった。

(5) 今後の課題と取り組み〔児童の思考過程と指導内容との関連付けから、留意すべき事項等〕

キャリア教育や環境教育などと同様に、この「景観」という観点も、どんな教育活動にも組み込んでいける、一つの視点となりうると感じた。一方で授業者はその視点がなければ、どんな価値のある活動に取り組んでも、「景観」という観点での確かな学びにはたどり着かない。今年度わたしは事業をとおして、わたし自身も子どもと一緒にまちを知り、まちづくりを考えることで、「景観」という教育の視点を得ることができた。まずは、多くの授業者が「景観」という視点を知ることが必要ではないかと考える。